

SPORT FOR everyone one

スポーツを通じたよりよい社会づくりを推進

日本に暮らす一人ひとりが日常生活や人生の中で、自分に合ったスポーツの楽しみ方を見つけ、それを通じて豊かな人生を送る。

それがSSFの目指す“Sport for Everyone 社会”の実現です。

スポーツは「する・みる・ささえる」など多様な楽しみ方があり、世代・国籍・性別・障害の有無などの属性にとらわれず、ともに楽しむことができます。スポーツにはそうした、人と人をつなぎ共生社会をはぐむ力があります。

また、お互いのスポーツ活動をささえ合うことでスポーツの楽しさを倍増させ、ともに助け合うマインドを育てることもできます。

“Sport for Everyone 社会”の実現を通じて、

私たちはスポーツによる共生・共助社会づくりにも取り組んでまいります。

エビデンスに基づく最適なスポーツの活用方法を提案

スポーツは身体面の健康はもとより、精神面の安定や他者との良好な関係づくりなどにも“効能”を発揮することがわかっています。スポーツシンクタンクであるSSFはこれらスポーツの効能に関するエビデンスを集め、多くの方々にそれをわかりやすく伝え、国や自治体のスポーツ政策に正しく活かされるよう努めます。

次の10年もその先も、社会をよりよくなるツールとしてのスポーツの活用を追求してまいります。

スポーツによって長くアクティブに生きられる社会へ

SSFは現在、中期目標「GOAL2025」を掲げ「スポーツによって長くアクティブに生きられる社会」の実現に取り組んでいます。

わが国が直面する大きな社会課題のひとつに少子高齢化問題があります。ひとりでも多くの国民がより長く、より健康に人生を過ごせるようになることが喫緊の課題です。私たちは多くの国民がスポーツ活動を通じて心身を健康に保ち、出来るだけ長い間、アクティブに過ごせる社会を目指しています。

客観的で質の高い研究調査活動(Think Tank)と、国内の自治体や内外のスポーツ振興機関・学術組織との連携活動(Do Tank)の“両輪”を回していきながら、

GOAL2025が目指す理想の実現に取り組んでまいります。



Sport for Everyone 社会の実現

GOAL2025

スポーツによって長くアクティブに 生きられる社会



主なできごと

1991

笹川スポーツ財団 設立
坪内嘉雄会長 就任



財団初期パンフレット

1997

小野清子会長 就任



2001

設立10周年記念式典 開催



事業・イベント

1991 SSFスポーツエイド 開始



1992

スポーツ・フォア・オール
国際フェア 開催



1993 チャレンジデー 開催



1994 SSF世界スポーツフォト コンテスト開催



2004

湘南オープンウォーター
スイミング 開催



2007

東京マラソン 開催



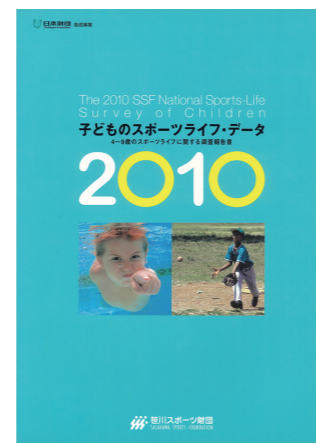
刊行物・メディア



スポーツライフ・データ 創刊 (1993)



青少年のスポーツライフ・データ 創刊 (2002)



子どものスポーツライフ・データ 創刊 (2010)



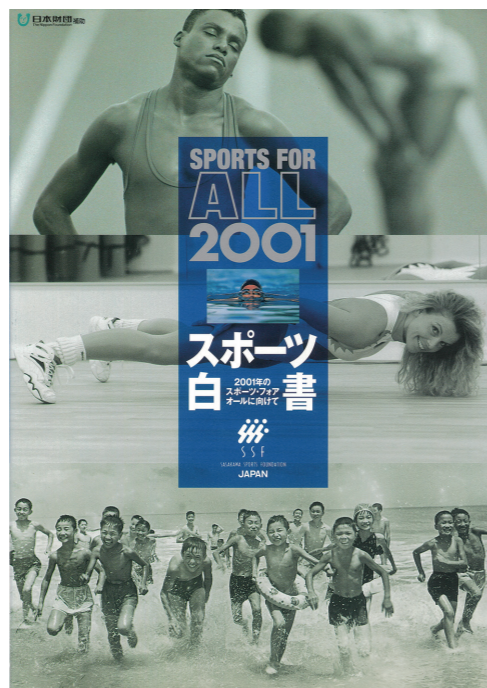
雑誌「SPORTS FOR ALL」0号、創刊号 (1992)



SSF海外レポート (1992)



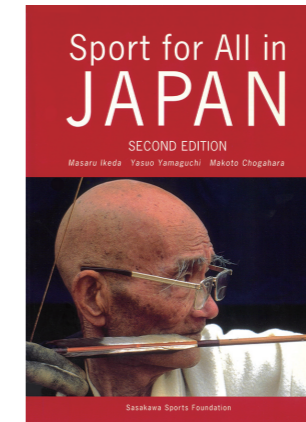
SPORTS FOR ALL NEWS 創刊 (1993)



スポーツ白書 創刊 (1996)



SSFが考えるスポーツクラブ 発行 (1999)



Sport for All in JAPAN (2001)



クラブハウス・ガイドブック 発行 (2004)



スポーツ・ボランティア・データブック 発行 (2004)



SSF世界スポーツフォトコンテスト写真集 「One Moment in Time」(2004年DVD写真集) (1995)



諸外国から学ぶスポーツ基本法 日本が目指すスポーツ政策 発行 (2010)



sfen.jp (sport for everyone network) ウェブマガジン 開設 (2001)